

年月日

18 04 25

ページ

10

N.O.

部品を引き出してメンテナンス。富士電波工業（大阪市淀川区、横畠俊夫社長、06・6394・1151）は、製造する溶解炉の制御盤で引き出し式の配線ユニットを採用した（写真）。修理時に前面パネルなどの部品の取り外しが不要になり、作業者の負担



メンテナンス負担を軽減

溶解炉制御盤

富士電波工業



題となつていた。横畠社長は「顧客と従業員、両方の満足を考えていく必要がある」と力説する。

を軽減できる。作業スペースも小さくて済む。制御盤は鋳造用溶解炉で、溶けた金属がるつぼから漏れたときに加熱素早く止める。3台の炉を制御する配線を独立して引き出しに入れ、修理が必要な部分だけ取り出

せる。「低コストで作業しやすい設計にできた」（横畠社長）としている。

工業炉は製品寿命が長く、メンテナンスが不可欠。ユーチャーの設置環境の省スペース化も進んでおり、作業性の改善が課題となつていた。